

第1日 10月23日(金) 13:00~15:30

午後の部会 (13:00~15:30)

部会1 「IR理論に依拠した学際的地域研究」

司会 草野 大希 (上智大学)

報告 重政 公一 (関西学院大学)

「ASEANの弁証法——人権と民主化をみる IR理論のパースペクティブ」

中村 覚 (神戸大学)

「サウディアラビアのロヒンギャ危機への対応——グローバル政治の中での全方位均衡」

大澤 傑 (駿河台大学)

「米州ボリバル同盟の設立と変容を説明する要因は何か——IR理論と地域研究の可能性と限界」

討論 酒井 啓子 (千葉大学)

勝間田 弘 (東北大学)

部会2 「帝國的秩序の崩壊と西側同盟関係」

司会 羽場 久美子 (青山学院大学)

報告 藤井 篤 (香川大学)

「脱植民地化と西側同盟——アルジェリア戦争とフランス・ベルギー関係」

三須 拓也 (東北学院大学)

「コンゴ動乱を巡る米英関係」

鈴木 宏尚 (静岡大学)

「再考・池田政権と東南アジア」

討論 都丸 潤子 (早稲田大学)

寺地 功次 (共立女子大学)

部会3 「21世紀東アジアにおける政治的価値観の対立——中国・台湾・香港関係の視点から」

司会 益尾 知佐子 (九州大学)

報告 谷垣 真理子 (東京大学)

「香港社会における『自由』の重要性——『一国』へのひとつの挑戦」

門間 理良 (防衛省防衛研究所)

「COVID-19 流行の中で政治的価値強化に努める台湾」

加茂 具樹 (慶應義塾大学)

「国内政治と外交政策の相互作用：中国の国内政治としての対香港政策」

討論 松田 康博 (東京大学)
竹中 千春 (立教大学)

部会 4 “The Development and Limits of Regional Institutions: Comparative Studies of Non-Western Cases” (英語で実施)

Chair: HIGASHINO Atsuko (University of Tsukuba)

Speakers:

KOGA Kei (Nanyang Technological University)

“Role of Regional Institutions in Regional Security: Cases of SCO and SAARC”

SUZUKI Sanae (The University of Tokyo)

“Intervention and State Strength: ASEAN and ECOWAS Compared”

MUELLER Lukas Maximilian (University of Freiburg)

“Re-assessing Regionalism in the Global South from the inside out: Regional Public Administrations’ Contribution to ASEAN’s and ECOWAS’s Policy Processes”

Discussant:

DAIDOUJI Ryuya (Waseda University)

YUZAWA Takeshi (Hosei University)

部会 5 「冷戦を考える——歴史・思想・植民地主義の観点から」

司会 下斗米 伸夫 (神奈川大学)

報告 倉科 一希 (広島市立大学)

「冷戦と『ドイツ問題』」

鈴木 陽一 (下関市立大学)

「イギリス帝国終焉への道——冷戦期国際社会の変容と脱植民地化」

西村 邦行 (南山大学)

「〈政治哲学の死〉の影で——冷戦期アメリカ国際関係論の精神史試論」

討論 葛谷 彩 (明治学院大学)

池田 亮 (東北大学)

分科会セッション A (15:45~17:15) 別掲

分科会セッション B (17:30~19:30) 別掲

第 2 日 10 月 24 日 (土) 9:30~12:00, 15:30~18:20 (共通論題)

午前の部会 (9:30~12:00)

部会 6 “Critical Analysis of Global Policy on Humanitarian Crisis” (英語で実施)

Chair: KAWAGUCHI Chigumi (Toyo Gakuen University)

Speakers:

KAMINO Tomoya (Gifu University)

“National Policy of Disaster Response: the US and Japan”

GOMEZ Oscar A. (Ritsumeikan Asia Pacific University)

“A Model for the Global Governance of Crises? The Health Emergencies Programme and the Limits of International Response”

IKEDA Josuke (University of Toyama)

“Peacebuilding Paradigm Sustainable? A Critical Theoretical Inquiry”

Discussant:

OKABE Midori (Sophia University)

SHIGA Hiroaki (JICA Research Institute)

部会 7 「エアバス、欧州航空機産業と米国——経済ロジックと安全保障ロジックの融合と対立」

司会 鈴木 一人 (北海道大学)

報告 鈴木 均 (外務省)

「エアバスと米国——経済ロジックと安保ロジックの相克と対立」

上原 良子 (フェリス女学院大学)

「仏ダッソー社の独自路線——国家・安全保障・グローバルマーケット」

河越 真帆 (神田外語大学)

「EUによるエアバス側面支援——補助金をめぐる GATT/WTO 紛争」

討論 鈴木 一人 (北海道大学)

田所 昌幸 (慶應義塾大学)

部会 8 「グローバル・リスクをめぐるガバナンス」

司会 山田 哲也 (南山大学)

報告 川村 仁子 (立命館大学)

「先端科学・技術のガバナンス——研究開発のためのリスク管理の枠組み」

前田 幸男 (創価大学)

「人類は気候危機を乗り越えられるのか? ——脱人間中心のガイア政治に向けて」

和田 洋典 (青山学院大学)

「ネオリベラリズムの危機と粘り強さ——オルタナティブな秩序は可能か」

討論 須田 祐子 (東京外国語大学)

上村 雄彦 (横浜市立大学)

部会 9 「変容する国際関係と日本の開発援助」

司会 高柳 彰夫（フェリス女学院大学）

報告 高橋 良輔（青山学院大学）

「ジオエコノミクス化する日本の ODA——パワーと価値の新たな地理的投射」

船田クラーセン さやか（明治学院大学）

「国際関係と日本の対アフリカ投資・開発援助——モザンビークの事例」

山本 レイモンド（オーフス大学）

「SDG と日本の開発協力戦略」

討論 岡部 恭宜（東北大学）

小川 裕子（東海大学）

部会 10 日韓合同部会 “Japan, Korea and the Post-Cold War Era” （英語で実施）

司会 飯田 敬輔（東京大学）

報告 佐藤 丙午（拓殖大学）

「日韓『輸出管理』問題から見る日米韓関係の変化」

KAIS 報告者（交渉中）

「未定」

KAIS 報告者（交渉中）

「未定」

討論 添谷 芳秀（慶應義塾大学）

上村 直樹（南山大学）

分科会セッション C（13：30～15：10）別掲

総会（15：10～15：30）

【共通論題】「『主権』をめぐる攻防」（15:30～18:20）

司会 後藤 春美（東京大学）

報告 中西 寛（京都大学）

「普通の国から不思議の国へ——冷戦後の日本と主権」

勝間 靖（早稲田大学）

「COVID-19 影響下における国際機構、国際保健協力、政治的リーダーシップのゆくえ——WHO、製薬企業、シラクサ原則をめぐる論争」

錦田 愛子（慶應義塾大学）

「国家主権の外側におかれる者の危機——移民／難民およびパレスチナの権利をめぐる」

討論 納家 政嗣（上智大学）

長 有紀枝（立教大学）

第3日 10月25日(日) 14:00~16:30

分科会セッションD (9:30~11:00) 別掲

分科会セッションE (11:15~12:45) 別掲

午後の部会 (14:00~16:30)

部会 11 「平和構築と国際秩序」

司会 井上 実佳 (東洋学園大学)

報告 篠田 英朗 (東京外国語大学)

「パートナーシップ平和活動と重層的な国際安全保障体制」

帯谷 俊輔 (東京大学)

「国際連盟期の平和維持——大戦・国境紛争・内戦」

中谷 純江 (国際連合)

「PKO に於けるハイブリッド・パートナーシップの実情」

討論 等松 春夫 (防衛大学校)

井上 実佳 (東洋学園大学)

部会 12 「日米安保体制と核兵器問題」

司会 波多野 澄雄 (国立公文書館)

報告 中島 琢磨 (九州大学)

「原子力潜水艦の日本寄港問題——核兵器搭載艦艇の寄港問題の争点化」

西村 真彦 (京都大学)

「核持ち込み問題に関する日米両国の認識形成過程——核『密約』研究の現状と課題」

岸 俊光 (毎日新聞社/早稲田大学)

「日本の非核政策の源流——日本政府下の『現実主義』学者による委託研究からの考察」

討論 岩間 陽子 (政策研究大学院大学)

河内 孝 (外国特派員協会)

部会 13 「歴史研究と理論研究の融合はどこまで可能か——新たな研究方法の模索」

司会 宮下 明聡 (東京国際大学)

報告 島村 直幸 (杏林大学)

「リベラルな国際秩序ははたして維持されるのか——理論と歴史の間」

中谷 直司 (帝京大学)

「外交史の研究者はなぜ理論を使わないのか——研究者の『生存競争』を超えて」

泉川 泰博 (中央大学)

「理論研究と歴史研究の統合——懐疑的見解」

討論 宮下 明聡（東京国際大学）
山本 健（西南学院大学）

部会 14 「レファレンダムと国際政治——民主主義と地域的秩序の共振」

司会 池本 大輔（明治学院大学）

報告 尾立 要子（大阪府立大学）

「暴力から共存へ——2018 年レファレンダムに至るフランスとニューカレドニアの絶えざる交渉」

高林 敏之（立教大学）

「棚上げされた住民投票——西サハラ国連和平プロセスの《破綻》とアフリカ地域情勢」

吉武 信彦（高崎経済大学）

「欧州統合過程におけるレファレンダム——北欧諸国の事例を中心として」

討論 池本 大輔（明治学院大学）

黒田 友哉（専修大学）

部会 15 「ナショナリズムと暴力」

司会 加藤 普章（大東文化大学）

報告 青山 弘之（東京外国語大学）

「シリアの非国家武装勢力の実態」

岡野 英之（近畿大学）

「隣国に漏出するナショナリズム——ミャンマー内戦におけるシャン人ナショナリズムとタイへの移民」

奥野 良知（愛知県立大学）

「カタルーニャ・スペイン問題：その要因と現状——進む国際問題化」

討論 落合 雄彦（龍谷大学）

内田 みどり（和歌山大学）